

目次

明石の君から浮舟へ——うき舟・うき木・小町——

大竹 明香 2

『うつほ物語』における「たぐひなし」——俗世の賛美

泉屋 咲月 16

宮内庁書陵部本『点取和歌部類』①所収

「秋二十首・冬十首」「雑二十首」和歌について

——延徳二（一四九〇）年九月九日起日後土御門天皇主催着到和歌との関係——

本山八重子 31

活字との密約——『貼雑年譜』に見る乱歩の雑誌偏愛——

石川 巧 44

『新青年』における〈猶太〉表象研究

村松まりあ 59

「内部」と「外部」の溶解——小島信夫「菅野満子の手紙」をめぐる

疋田 雅昭 73

小学校国語科教材としての戦争の物語

——今西祐行「ヒロシマのうた」からみる忘却と想起の運動

渡部 裕太 86

崎山多美「水上往還」論——「島」を読む〈私〉

仲井眞建一 99

書評 肖江楽著『英和对訳袖珍辞書』の研究

常盤 智子 113

大木志門著『徳田秋聲と「文学」可能性としての小説家』

中山 弘明 117

彙報・編集後記